上士幌町民の生涯学習活動を応援します！

生涯学習だより 上半期号 2023

9/25 発行

「糠平の歴史、現在、そしてこれから」

■発行：生涯学習推進協議会会長　竹中　貢　■編集：生涯学習情報委員会委員長 小嶋 則之　■事務局：教育委員会内 ☎2-3024

生涯学習とは、私たちが生涯にわたり、学校や社会などの様々な場所で学び経験する全てのことを指しています。情報委員会では町民による様々な活動やきっかけとなる事がらを生涯学習だよりの中で取り上げていきます。本紙を通じて皆様の豊かな生活づくりの新たな気づきにつながれば幸いです。

タウシュベツ川橋梁 未来につなぐ郷土の歴史

今、タウシュベツ川橋梁を取り上げるワケ

なぜ今、タウシュベツ川橋梁を取り上げるのか。タウシュベツ川橋梁が、今の形を保っていられるのは時間の問題という段階まで劣化と崩壊が進んでしまっています。完全に崩壊してしまう前に、タウシュベツ川橋梁がどのような存在なのかを、町民に知ってほしいという思いから、今回特集することとしました。

現在のタウシュベツ川橋梁の様子

タウシュベツ川橋梁の成り立ち

国鉄士幌線が1939年（昭和14年）に十勝三股駅まで開通した際、多数のアーチ橋が建造されました。その数は46にも達します。その中のひとつが、音更川の支流であるタウシュベツ川にかかるタウシュベツ川橋梁です。山奥でも工事を可能にするため、現地で採取できる良質の砂利とセメントと混ぜて作るコンクリートアーチとしました。これはコストも安く工期も早いとても効率的な工法であり、かつ優美な形状のアーチを建造できる、当時の鉄道省技術陣の良案だったそうです。

タウシュベツ川橋梁 崩壊の歴史

最近、タウシュベツ川橋梁は損傷が目立つようになり、崩壊は時間の問題といわれています。実はコンクリート橋には、外側の鉄筋コンクリート枠が崩れたとき、内部の割石や砂利が露呈し、容易に崩壊するという欠点がありました。この弱みが近年特に露わになり、2003年（平成15年）十勝沖地震（士幌震度5弱）の影響で中央付近の橋脚上部の側壁が大きく崩壊、その後、2011

1921（大正10）年
国鉄士幌線（帯広～上士幌間）実測開始

1925（大正14）年
帯広～士幌間を士幌線として新規開業

1926（大正15）年
士幌～上士幌間を士幌線として新規開業

1937（昭和12）年
糠平駅開業
タウシュベツ川橋梁竣工

1939（昭和14）年
タウシュベツ川橋梁使用開始

1955（昭和30）年
タウシュベツ川橋梁閉鎖
※使用期間約16年間

1987（昭和62）年
士幌線全線廃止

1997（平成9）年
アーチ橋梁群の解体計画があったが、地元有志の保存活動が実り、上士幌町が約30カ所のアーチ橋を買い取る

2001（平成13）年
タウシュベツ川橋梁北海道遺産に登録

7年（平成29年）2カ所、2020年（令和2年）1カ所、2021年（令和3年）2カ所、今年2023年（令和5年）2カ所と、上部の損壊が次々と確認されています。

そして橋の水没中の水圧も劣化の要因となります。冬にはコンクリートにある微細な孔に入った水分が凍結し、氷の体積膨張によってひび割れが発生します。この凍結と融解を重ねることで、外側のコンクリートは劣化していきます。これらにより、橋の崩壊は時間の問題となっています。

中の砂利が露出している様子

「幻の橋」と呼ばれる所以

人造湖である糠平湖は、季節やダムの発電によって水位が劇的に変化します。その高低差は最大で30mともいわれています。橋梁全体が水没する時期があれば、水位が下がり橋梁全体が見渡せる時期もあります。その様子から「幻の橋」とも呼ばれています。降水量など、さまざまな要因に左右されるものの、例年は1月頃に凍結した湖面に姿を徐々に現し、9月頃になると水没します。また晴れた風のない日に湖面に橋が映ると、アーチが湖面に映り込み、メガネのように見えることから「眼鏡橋」の別名を持っています。

タウシュベツ川橋梁の今

タウシュベツ川橋梁は、2001年（平成13年）10月22日「第1回北海道遺産」に選定された「旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群」のひとつです。2008年（平成20年）にJRポスター「フルムーン」にタウシュベツ川橋梁の景色が使用されたことが全国から注目を浴びるきっかけになりました。

現在はいつ崩壊して、今の形を保てなくなるかわからない状態であることも相まって、一目見ようとタウシュベツ川橋梁に足を運ぶ観光客で賑わっています。上士幌町の発展を支えてきたタウシュベツ川橋梁。郷土の歴史を、未来へつないでいきましょう。

生まれ育った場所を守りたい
～保育教諭からの転身～

長い歴史を家族と共に

昭和4年に開業した「糠平温泉ホテル」。100年近い歴史のある旅館です。初代が福島県から移住されたことから、開業当初は「福島館」という屋号でした。現在の社長、小野内勝さんで4代目となり、2年前から長女の梨乃さんが従業員として加わりました。

糠平温泉ホテル
小野内 梨乃さん

もともと保育教諭の仕事をされていた梨乃さん。ご自身も通われた糠平私立保育所で3年間勤務後、一時スキーインストラクターの仕事に就いていましたが、再び糠平私立保育所で勤務。2016年に糠平私立保育所が閉園すると上士幌町認定こども園に勤務します。保育教諭として仕事をしていたときから時々休日に旅館を手伝い、ホームページやSNSでの情報発信、ロゴマークのリニューアルなどもこの頃から手掛けていたそうです。

仕事の大変さを実感しながらも、お客様との触れ合いを通じて「父の代で旅館を終わりにしたくない。継ぎたい」という気持ちが大きくなっていったといいます。

家族の思い、梨乃さんのアイディア

ところが、そんな気持ちをご両親に伝えるも「そんな生半可な気持ちでできる商売ではない！」と大反対。それでも梨乃さんの気持ちは変わらず、ご両親を説得し続け、2021年4月に実家である旅館に戻って来ました。

旅館の仕事に就いてから2年が経過し、建物の改修工事も進めるようになりましたが、この間、運営方針などをめぐって、ご両親と衝突することもしばしばあったといいます。また、常にお客様を迎え入れる緊張が続く中で、改めてこの仕事の大変さを痛感。でも、疲れた顔では良いサービスの提供ができない……。

ご両親もそんな梨乃さんの考えを理解していき、少しずつ梨乃さんの思いが形になってきています。

ホテル内「レストランナウシカ」

梨乃さんに一番のやりがいを伺ったところ、「スリッパクリップなどの小さなサービスに常連のお客様が気づいてくれて楽しんでくれたり、ごはんがおいしかったと言ってくれたり、そういうお客様の声がやりがいにつながっています。また改修工事も古き良き時代のものは残しながら、これから先の時代を見据えた工事をしています。そこにお客様が気づいてくれることもうれしいですね」と、答えてくれました。

リニューアルしたロゴマークが入った「のれん」

館内を見せていただくと、浴場ののれんに意味が込められていたり、脱衣室が新しくおしゃれになっていたり、お部屋がモダンで素敵だったり、随所に梨乃さんの思いが現れていました。

最後に、今後の展望も伺いました。「今はタウシュベツ川橋梁を目的として来られるお客様が多いのですが、糠平には自然がたくさんあるのが魅力。この多彩なフィールドを活かして地域を盛り上げていきたいです。そして、お客様のココロとカラダが喜ぶ、そんな旅館をつくっていきたいです」

今後も糠平温泉ホテルの変化と梨乃さんの奮闘ぶりに注目です！

糠平温泉ホテル

詳しい情報はInstagramで発信しています。

「自転車で地域を盛り上げたい」
カフェ×サイクリングの新拠点

サイクリストのオアシス「ヒグマ珈琲」

2021年7月に糠平湖畔にオープンした「ヒグマ珈琲」は、一般観光客はもちろん、多くのサイクリストが訪れる人気のカフェです。今年の3月にはサイクリストたちの休憩拠点である「サイクルオアシス」にも認定されました。道内では24拠点あり、十勝管内では唯一の場所となります。

ヒグマ珈琲の店内。窓からは糠平湖が見渡せます

そんなカフェを営むのは鈴木宏さん。「サイクリストたちが集まる場所を作ろうと思った」ことが、ヒグマ珈琲を開くきっかけだったと言い、さらに「今後はカフェだけでなく、レンタサイクル事業や、周囲のフィールドを利用して子どもたちがマウンテンバイクを楽しめる環境を整えていきたい」と話します。

カフェとサイクリング。鈴木さんはなぜ、これらをつなげていこうと考えたのでしょうか。

「町には自転車店が必要だ」

鈴木さんは、2018年に地域おこし協力隊として上士幌町に移住してきました。以前も観光の仕事に携わっていましたが「元々サイクリングが好きなわけではなかった」と言います。

「地域おこし協力隊をしていたときに、町のレンタサイクル事業を担当していたことが自転車に興味を持ったきっかけです。坂井さんと市川さん、この店の仕事を目の当たりにして、町の自転車店はすごいなと思ったんです」

そう話す鈴木さん。坂井さんや市川さんが、ちょっとした相談や困りごとにすぐに対応していく姿を見て「地域に根ざした自転車店は町になくてはならない存在だ」と思うようになりました。

一方で鈴木さんは、後継者がいないというお店の課題も知ることになります。そしてそのときから「町の自転車店を存続させるにはどうすればよいか」を考えるようになったそうです。そこで着目したのがサイクルツーリズム（自転車を活用した観光）でした。

「坂井さんも市川さんも、自転車店を営むだけでなく、町のサイクリング大会などにも多大に協力しています。それで、サイクル事業をもっと活発にしてサイクリングに興味を持つ人が増えれば、町には自転車店が必要だと思う人が増えていくかもしれないと思ったんです」

シーズンを通して楽しめるようにしたい

それから鈴木さんは、冬のアクティビティとして雪上でファットバイク（タイヤが太い自転車）が楽しめる環境を整えたり、冬の糠平湖での氷上サイクリング実現にも尽力します。そしてサイクリストたちの休憩地点にしたいと、ヒグマ珈琲もオープンさせました。

「サイクルオアシス」として、サイクルラックも設置

また、サイクルツーリズムや環境整備推進のために英国のサイクリングUKテクニカルガイド資格まで取得。この資格は全国でも3人しか持っていないそうです。

「夏はヒグマ珈琲でレンタサイクル、冬は糠平湖でのサイクリングなど、シーズン問わずに訪れた人が楽しめるようにしたいですね。1年を通してたくさんの人がぬかびら源泉郷や上士幌に来てくれれば、地域ももっと盛り上がりますし、自転車店を継続させたいという思いを持つ人も現れるんじゃないかなと思っています」

町の自転車店との触れ合いをきっかけに活動を広げている鈴木さん。糠平湖畔のカフェを中心に、その輪はまだまだ大きくなりそうです。

ヒグマ珈琲の外観

鈴木　宏さん

東京でスーツアクターの仕事をした後、ニセコで15年間観光業に携わる。2018年４月、上士幌町へ移住。サイクルツーリズムの一助として2021年７月「ヒグマ珈琲」をオープン。カフェとサイクリングの両輪で地域を盛り上げている。

令和5年度生涯学習情報委員です

後列左から小嶋委員長、瀬野委員、佐々木委員
前列左から松田委員、小川副委員長、菅原委員

今年度より、生涯学習だよりが町のホームページでも閲覧することができます。町ホームページ内、生涯学習課ページからご覧いただくか、下記二次元バーコードをスマホやタブレットで読み取りご覧ください。

ヒグマ珈琲

営業期間：GW～10月末
営業時間：10時～17時
定 休 日：水・木
※詳しい営業情報はInstagramで発信しています。